

社団法人 環境科学会2012年会

プ ロ グ ラ ム

社団法人
環 境 科 学 会

社団法人 環境科学会 2012 年会

日 時：2012 年 9 月 13 日（木）～9 月 14 日（金）

会 場：横浜国立大学 常盤台キャンパス 理工学部講義棟 A
〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
http://www.ynu.ac.jp/access/pdf/map_ynu.pdf

交 通：横浜駅（JR 東海道線・横須賀線・京浜東北線・横浜線／横浜市営地下鉄／東急東横線・みなとみらい線／京浜急行線／相鉄線）西口バス乗り場からバス約 20 分
※詳細は次ページのアクセス案内をご参照ください。

参加費：事前申し込み制度はありません。

当日に「受付」で参加票に必要な事項をご記入の上、下記の参加費を添えて参加登録をお願い致します（講演要旨集代を含む）。

正会員	6,000 円	準会員	3,000 円
非会員	9,000 円	非会員学生	5,000 円

懇親会：9 月 13 日（木）18：00～20：00
横浜国立大学内 「れんが館」
会 費 5,000 円（社会人）、1,000 円（学生）

お問合せ先：

- 2012 年会実行委員会
実行委員会 幹事長 亀屋隆志
横浜国立大学 大学院環境情報研究院
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 総合研究棟 S411
E-mail: kameya@ynu.ac.jp（お問合せは電子メールでお願い致します）
- 環境科学会 事務局（<http://www.ses.or.jp/>）
〒135-0006 東京都江東区常盤 2-9-6 グリーンプラザ深川常盤 201
TEL: 03-3634-2942 FAX: 03-3634-2943
E-mail: office@ses.or.jp

横浜国立大学 常盤台キャンパスへのアクセス案内

横浜駅まで電車で：

JR 東海道線・横須賀線・京浜東北線・根岸線・横浜線／横浜市営地下鉄／東急東横線・みなとみらい線
／京浜急行線／相模鉄道線

※新横浜駅（東海道新幹線）からは、横浜市営地下鉄または JR 横浜線で横浜駅までお越しください。

羽田空港から横浜駅へ：

京浜急行線（京急蒲田で乗り換え約35分、470円）

空港リムジンバス（渋滞なければ直通で約 30 分、560 円）

横浜駅から大学へ：

横浜駅西口バス乗り場からバスのご利用（約 20 分、210 円）が便利です。

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

横浜駅西口から階段を降りてダイヤモンド地下街へ入り、 ショップ間に地上バス停への上り階段があります。行き先ごとに階段が異なりますのでご注意ください（下図をご参照ください）。

バス路線：

(推奨) 9 番乗り場 相鉄バス浜 11 系統「釜台第 1 or 釜台第 2」下車, 徒歩で西門より 5 分。

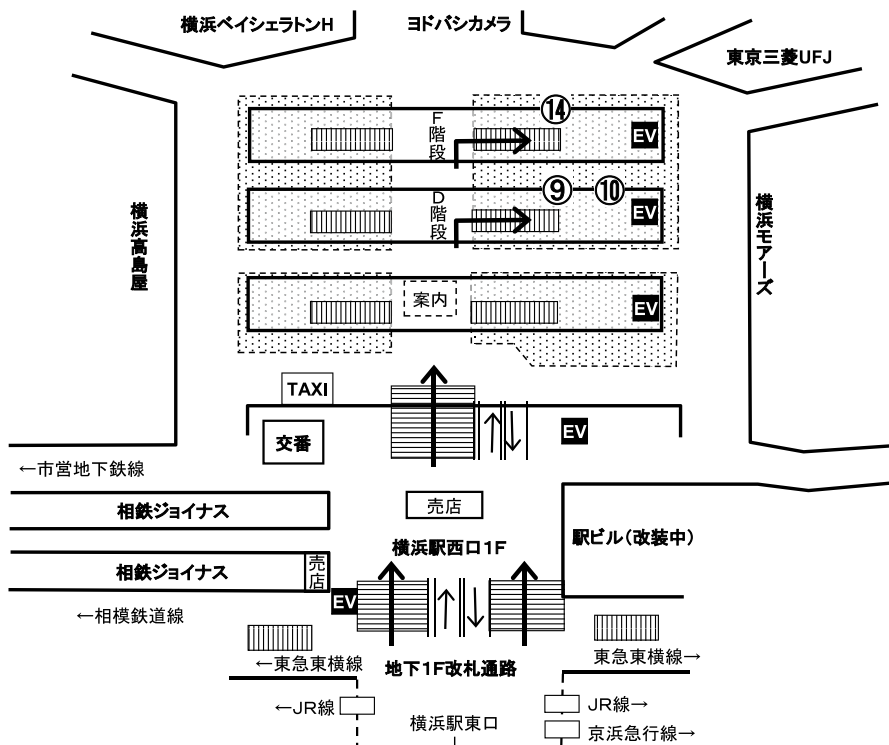
10 番乗り場 相鉄バス浜 10 系統「国大北」下車。

※ 運行時間帯に注意。

14 番乗り場 神奈中バス 201 系統 or 329 系統「国大北」下車。

※ 運行時間帯に注意。

<http://www.ynu.ac.jp/access/bus.html> ←時刻表等詳細はこちらをご参照ください。



横浜駅： 地下 1F 改札通路～西口バス乗り場 まで

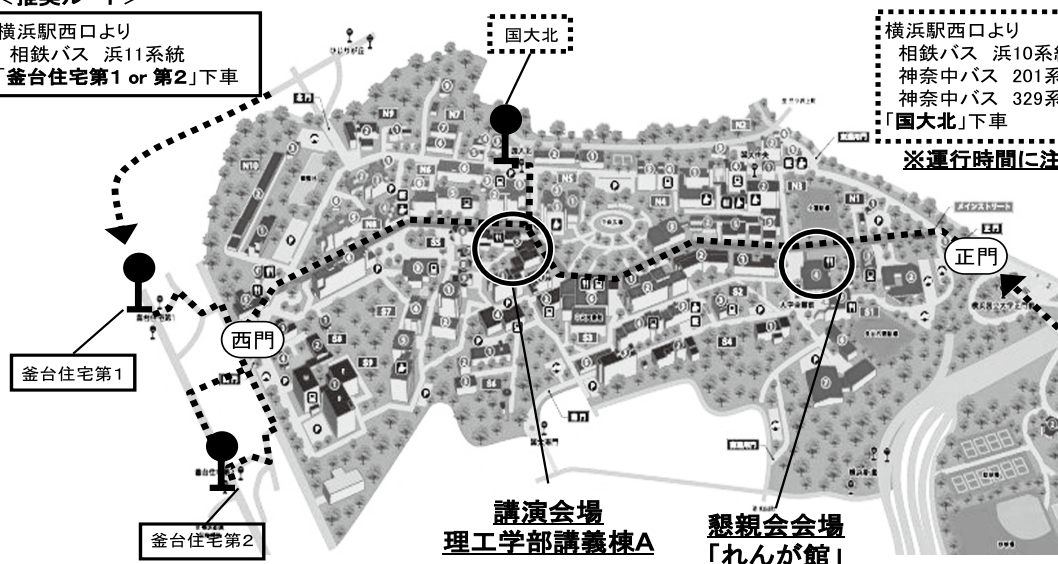
横浜国立大学 キャンパスマップ

<推奨ルート>

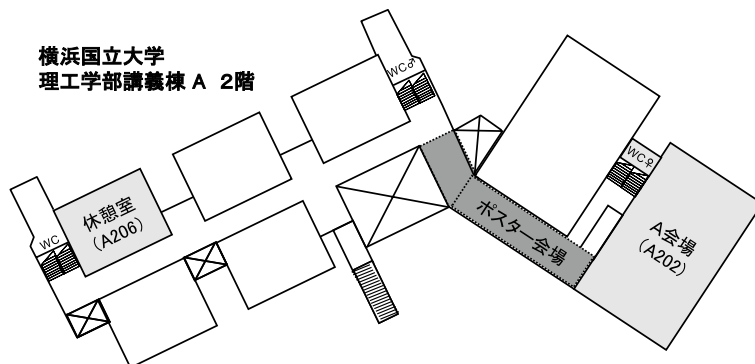
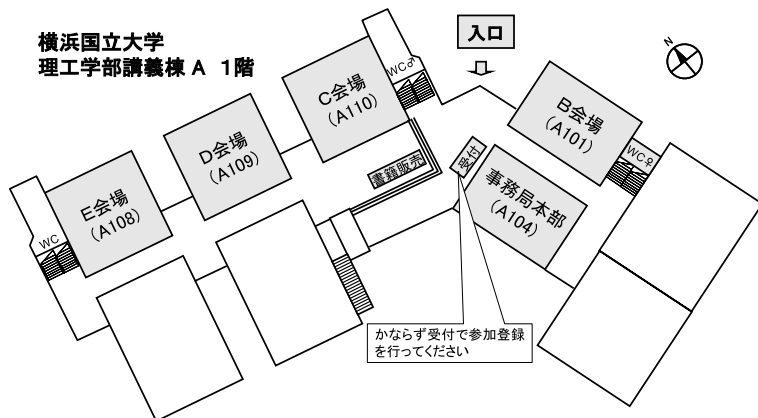
横浜駅西口より
相鉄バス 浜11系統
「釜台住宅第1 or 第2」下車

横浜駅西口より
相鉄バス 浜10系統
神奈中バス 201系統
神奈中バス 329系統
「国大北」下車

※運行時間に注意



会場案内



発表者の方々へ

1. 参加登録

口頭発表、シンポジウムならびにポスター発表、いずれへの参加も、必ず参加登録を行ってください。

2. 発表時間

口頭発表：15分（発表10分、質疑応答及び入れ替え5分）

シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。

ポスター発表：9月13日（木）11：00までにポスターを所定の場所に掲示してください。

コアタイムは9月13日（木）12：00～13：30です。発表者はポスター前にお集まりください。

3. 発表方法

口頭発表

- ・パソコン（Windows）とPCプロジェクタを用意します。
- ・原則としてOHPは用意いたしません。
- ・持参されたパソコンの接続はできません。必ずファイルを媒体に入れてご持参ください。
- ・媒体はCD-R、USBメモリのいずれかとします。ウィルス感染の危険性もありますので、CD-Rもしくは書きこみ防止機能付きUSBメモリをお奨めします。
- ・ソフトはPowerPoint2003で、2007のファイルは2003形式で保存をお願いします。
- ・PowerPointのファイル名には、必ず発表者の氏名を含めてください。
例：1A-0945 横浜太郎.ppt
- ・各セッション開始の10分前までに、発表会場のパソコンにファイルをコピーしてください。発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

シンポジウム

- ・パソコン（Windows）とPCプロジェクタを用意します。
- ・原則としてOHPは用意いたしません。
- ・媒体、ソフトについては、口頭発表と同様です。

ポスター発表

- ・掲示は受付後に9：15から行うことができます。
- ・掲示に必要な紙、テープ等は事務局で用意いたします。
- ・パネルのサイズは横88cm×縦198cmです。ポスターはA0サイズ（縦）以内でご用意ください。
- ・机や電源など掲示板以外の設備の使用をご希望される場合には、事前に実行委員会までメールでお問い合わせください。当該設備をご持参いただく場合やご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
- ・9月14日（金）15：30までに各自で撤去願います。多くの方に成果を見ていただけるよう、できるだけ長く掲示いただけるようお願い致します。
- ・規定時間を過ぎても撤去されていないポスターは、年会実行委員会が撤去・廃棄しますので、ご了承ください。

社団法人 環境科学会 2012 年会 プログラム

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	ポスター会場	
部屋番号		A202 (200名)	A101(60名)	A110 (80名)	A109 (80名)	A108 (80名)	2F	
9月13日 (木)	9:00		9:00 受付開始				※受付開始後、 ポスター掲示可。	
	9:15							
	9:30							ポスター発表 9:45~14:00
	9:45							
	10:00		口頭発表-1B-1 大気環境 9:45~10:45	口頭発表-1C-1 水環境 9:45~10:45	口頭発表-1D-1 環境理念1 9:45~10:45	シンポジウム1(P) 環境配慮型消費研究 から持続可能なライフ スタイル研究への 転換 青柳みどり 田崎智宏 9:45~12:00		
	10:15							
	10:30						コアタイム 12:00~13:30	
	10:45							
	11:00		口頭発表-1B-2 環境動態と処理技術 1 11:00~12:00	口頭発表-1C-2 化学物質 11:00~12:00	口頭発表-1D-2 環境理念2 11:00~12:00			
	11:15							
	11:30						優秀発表賞 投票×切 14:00	
	11:45							
	12:00							
	12:15							
	12:30		昼休み／優秀発表賞ポスター審査					
	12:45							
	13:00							
	13:15							
	13:30			シンポジウム2(P) 農 薬分解物の安全性、 環境中濃度、浄水処 理性:農薬分解物の 環境安全管理を目指 して 高梨啓和 亀屋隆志 13:30~16:30	シンポジウム3(P) 旭硝子財団 環境研究近藤次郎 グラント発表会 岡田光正 鈴木基之 13:30~16:30	シンポジウム4 学術賞受賞記念 シンポジウム 環境経済評価 における異質性 肥田野登 加藤尊秋 13:30~16:30		
	13:45	口頭発表-1B-3 環境動態と処理技術 2 14:00~15:00						
14:00								
14:15	口頭発表-1B-4 環境動態と処理技術 3 15:15~16:15							
14:30								
14:45								
15:00								
15:15								
15:30								
15:45								
16:00								
16:15								
16:30								
16:45	表彰式 16:45~							
17:00	学会賞記念講演 大塚柳太郎							
17:15								
17:30								
17:45								
18:00								
18:15	懇親会(若手育成事業表彰式を含む)「れんが館」 18:00~20:00							

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場		
部屋番号		A202 (200名)	A101(60名)	A110 (80名)	A109 (80名)	A108 (80名)		
9月14日 (金)	8:30		8:30 受付開始					
	8:45							
	9:00		口頭発表-2B-1 環境評価 9:00～10:15	口頭発表-2C-1 循環型社会1 9:00～10:15	シンポジウム5(P) 開発途上国での 持続可能な バイオマスタウンの 実現に向けて 迫田章義 望月和博 9:00～12:00	シンポジウム6(P) 化学物質の ライフサイクルを 通じたりリスク評価の 最新研究 益永茂樹 小林 剛 9:00～12:00		
	9:15							
	9:30							
	9:45							
	10:00		口頭発表-2B-2 受賞記念講演 10:30～11:30	口頭発表-2C-2 循環型社会2 10:30～11:45				
	10:15							
	10:30							
	10:45							
	11:00		昼休み					
	11:15							
	11:30							
	11:45							
	12:00		昼休み					
	12:15							
	12:30							
	12:45							
	13:00		口頭発表-2B-3 環境経済 13:30～14:45	口頭発表-2C-3 環境政策 13:30～14:45	シンポジウム7(P) 未規制化学物質の測 定・評価・管理に関す る最新研究課題 ～若手研究者からの発信～ 三宅祐一 堀井勇一 13:30～15:30	シンポジウム8 地域レベル温暖化 防止計画の策定・目 標管理と環境指標・ 環境情報 中口毅博 田中 充 13:30～16:30		
	13:15							
	13:30							
13:45								
14:00								
14:15								
14:30								
14:45								
15:00	口頭発表-2B-4 人と環境 15:00～16:00	口頭発表-2C-4 環境計画 15:00～16:00						
15:15								
15:30								
15:45								
16:00								
16:15								
16:30								
16:30								

※ポスターは
15:30までに撤去
してください。

口 頭 発 表

【第1日目(9月13日) 午 前】

B会場 (A101 教室) 口頭発表-1B-1 大気環境 (9:45 ~ 10:45)

座 長： 中島常憲 (鹿児島大学)

- 1B-0945 中国大陸からの石炭燃焼由来エアロゾルのトレーサーとしてのイオウおよびホウ素同位体比の有効性
○坂田昌弘 (静岡県大・環境研/静岡県大院・環境), 石川友美 (静岡県大院・環境), 光 延聖 (静岡県大・環境研/静岡県大院・環境)
- 1B-1000 サーマルデソープションを用いたハロゲン化・ニトロ化多環芳香族炭化水素高感度・選択的分析
○朝日宏行, 雨谷敬史, 三宅祐一 (静岡県大院・薬食生命)
- 1B-1015 大気中六価クロムの年間濃度変動に及ぼすクロムの形態変化の影響と解析
○山下裕太 (横国大・工), 姫 旭, 荻野洋祐, 小林 剛, 高橋ゆかり (横国大院・環境), 三宅祐一 (静岡県大・環科研), 久保 隆 (長崎大・共セ), 亀屋隆志 (横国大院・環境)
- 1B-1030 大気拡散予測モデルを用いた様々な六価クロム排出源からの大気濃度への寄与の解析
○李 世明, 小林 剛, 東海林あさこ, 高橋ゆかり, 亀屋隆志 (横国大院・環境)

B会場 (A101 教室) 口頭発表-1B-2 環境動態と処理技術1 (11:00 ~ 12:00)

座 長： 小林 剛 (横浜国立大学)

- 1B-1100 廃棄物焼却ガス・飛灰・焼却灰中の塩素化多環芳香族炭化水素類の媒体間挙動
○三宅祐一, 唐 亮, 王 齊, 雨谷敬史 (静岡県大院), 堀井勇一, 野尻喜好, 大塚宜寿 (埼玉県環境科学国際セ)
- 1B-1115 廃棄物焼却炉からのハロゲン化多環芳香族炭化水素類の排出情報に基づく周辺住民への曝露濃度推定
○王 齊, 三宅祐一, 唐 亮 (静岡県大院・薬食生命), 堀井勇一, 野尻喜好, 大塚宜寿 (埼玉県環境科学国際セ), 雨谷敬史 (静岡県大院・薬食生命)
- 1B-1130 Co, Ce 系酸化物触媒に及ぼす有機シリコンの影響
○萩原利哉, 水越厚史, 染川正一 (都産技研)
- 1B-1145 生物処理法や光触媒法を用いた水相からのセレン酸の除去
○中島常憲, 上戸 龍, 高梨啓和, 大木 章 (鹿大院・理工)

C会場 (A110 教室) 口頭発表-1C-1 水環境 (9:45 ~ 10:45)

座 長： 近藤 明 (大阪大学)

- 1C-0945 微量化学物質分析の窒素吹付濃縮過程における揮散ロスとヘンリー定数との関係
○小沼一元 (横国大・工), 齋藤美穂, 三保沙織, 近藤貴志, 亀屋隆志, 藤江幸一 (横国大院・環境)
- 1C-1000 各種環境化学物質のリスク評価に必要な分析感度と濃縮法の検討
○小池瑛子, 亀屋隆志, 近藤貴志, 小林 剛, 藤江幸一 (横国大院・環境)
- 1C-1015 利根川水系の浄水場におけるホルムアルデヒド水質汚染の原因物質の探索
○小林憲弘, 杉本直樹, 久保田領志, 五十嵐良明 (国立衛研), 野本雅彦 (北千葉広域水道企業団)
- 1C-1030 八王子市市街地における湧水水源と保全に関する水文考察
○松塚雅博 (杏林大・保健) 本田翔平 (NTT 東日本関東病院), 網野秀一 (甲府共立病院), 石川友美 (静岡県生活科学検査セ), 関 健介 (杏林大・保健), 後藤恭一 (AERC 航空環境セ), 金子哲也 (杏林大・保健)

C会場 (A110 教室) 口頭発表-1C-2 化学物質 (11:00 ~ 12:00)

座 長: 小林憲弘 (国立医薬品食品衛生研究所)

- 1C-1100 Screening of risk possessing PRTR chemicals in Lake Biwa-Yodo River Basin using one-box multimedia model.
○Tharaka ARIYADASA, Akira KONDO, Yoshio INOUE (大阪大院・工)
- 1C-1115 水質環境測定点における化管法対象物質の一斉検出とその頻度
○齋藤美穂, 村田夏樹, 近藤貴志, 亀屋隆志, 藤江幸一 (横国大院・環情)
- 1C-1130 重金属投与後のラット肝臓中の重金属量と誘導・合成された MT 量との関係
○齋藤 秀 (北大・理)
- 1C-1145 日本の化粧品関連書籍中の化学物質リスクに関する記述表現の分析
○小島裕也, 林 慧妹, 大矢 勝 (横国大院・環情)

D会場 (A109 教室) 口頭発表-1D-1 環境理念1 (9:45 ~ 10:45)

座 長: 栗栖 聖 (東京大学)

- 1D-0945 サステイナビリティ学の専門家間における視点の差異に関する検証
○熊澤輝一 (地球研), 上須道徳 (大阪大・CEIDS), 原圭史郎 (大阪大・CEIDS), 木村道徳 (JST 低炭素社会戦略センター), 齊藤 修 (国連大)
- 1D-1000 人間関係から捉えるサステイナブルな社会構築ための課題
○大矢 勝, 小島裕也 (横国大院・環情)
- 1D-1015 環境科学の俯瞰—環境科学会誌における学際性—
○内山弘美
- 1D-1030 (公社) 日本水環境学会東北支部の「東北・水すまし賞」による児童・生徒の水環境教育への支援について
○三上 一 (青森県)

D会場 (A109 教室) 口頭発表-1D-2 環境理念2 (11:00 ~ 12:00)

座 長: 熊澤輝一 (総合地球環境学研究所)

- 1D-1100 市民の環境配慮行動に係る心理構造モデル分析
○青木えり (東大・工), 栗栖 聖 (東大・先端研), 花木啓祐 (東大・工)
- 1D-1115 ソウル市民を対象とした環境配慮行動促進に向けた情報提供の効果
○李 炫俣 (東大・工), 栗栖 聖 (東大・先端研), 花木啓祐 (東大・工)
- 1D-1130 中小企業経営における「環境配慮」の実態調査②—「環境方針」の策定とその多様性—
○武者英之 (三協物産), 永田勝也 (早大)
- 1D-1145 大学生を対象にした電力測定演習の実践
○島崎洋一 (山梨大)

【第1日目(9月13日) 午 後】

B会場 (A101 教室) 口頭発表-1B-3 環境動態と処理技術 2 (14:00～15:00)

座 長: 益永茂樹 (横浜国立大学)

- 1B-1400 **論文賞受賞記念講演:** 土壌流出モデルとマルチメディアモデルを組み合わせた流域スケールでの高疎水性物質の挙動予測
○近藤 明 (大阪大院・工), 加賀昭和 (大阪大院・工), 鶴川正寛 (兵庫県環境研究センター), 井上義雄 (大阪大院・工)
- 1B-1415 ワンボックス型マルチメディアモデルを用いた琵琶湖・淀川流域の水銀の挙動評価
○越智英貴, 近藤 明, 井上義雄 (大阪大院・工)
- 1B-1430 鉛汚染土壌の保管状態の違いによる溶出基準判定結果への影響要因の検討
○久保寺良光, 高橋ゆかり, 劉 子宇, 小林 剛, 浦野紘平 (横国大院・環境)
- 1B-1445 光触媒シートを利用した低コスト原位置土壌浄化の実証試験
○桐谷久恵, 砂田香矢乃, 横山邦雄 (東大先端研), 橋本和仁 (東大院工, 東大先端研)

B会場 (A101 教室) 口頭発表-1B-4 環境動態と処理技術 3 (15:15～16:15)

座 長: 坂田昌弘 (静岡県立大学)

- 1B-1515 ラムサール条約登録湿地クッチャロ湖の環境変化要因と温室効果気体の動態
○吉田 磨 (酪農大・農食環境), 林 大希, 佐々木崇 (酪農大・環境シス), 窪田千穂, 岡崎祐樹 (酪農大院・酪農)
- 1B-1530 オフセット印刷時に発生する処理前ガス中の VOC 分析
○水越厚史, 萩原利哉, 染川正一, 井上 潤, 小島正行 (都産技研)
- 1B-1545 1,4- ジオキサン の土壌中での気化・拡散・吸着・水溶出挙動の解析による土壌中残留性評価
○渋谷麻衣, 小林 剛, 高橋ゆかり, 亀屋隆志, 藤江幸一 (横国大院・環境)
- 1B-1600 1,4- ジオキサンや揮発性有機化合物の土壌気化・拡散挙動予測による環境影響の考察
○森 一星, 渋谷麻衣, 上田裕之, 小林 剛, 高橋ゆかり, 亀屋隆志, 藤江幸一 (横国大院・環境)

【第2日目(9月14日) 午 前】

B会場 (A101 教室) 口頭発表-2B-1 環境評価 (9:00～10:15)

座 長: 馬場健司 (電力中央研究所)

- 2B-0900 クールスポットの涼しさの主観評価とその規定要因に関する研究-埼玉県を事例として-
○中口毅博 (芝浦工大)
- 2B-0915 統合化指標 ELP を応用したライフスタイルアセスメントに関する検討
○花園竜三 (早大・環エネ), 小林雄大 (早大・理工), 小野田弘士 (早大・環境総研), 永田勝也 (早大・環エネ)
- 2B-0930 日本とマレーシアの若年層の自動車保有に対する意識に関する研究
○松本安生 (神奈川大・人間科学), 上村芳三 (ペトロナス工科大・工)
- 2B-0945 スマートグリッドにおける電気自動車車載蓄電池の最適利用
○湯浅英俊 (東京農工大院・工), 長坂 研 (東京農工大院・工)
- 2B-1000 電気自動車による低炭素社会の実現に向けたロードマップ作成に関する研究
○立花潤三, 九里徳泰 (富山県立大・工)

B会場 (A101 教室) 口頭発表 -2B-2 受賞記念講演 (10:30 ~ 11:30)

座 長: 亀屋隆志 (横浜国立大学)

- 2B-1030 **奨励賞受賞記念講演**: 3R システムなどの環境政策の統合的評価に関する研究
○中谷 隼 (東大・工)
- 2B-1045 **奨励賞受賞記念講演**: 地方自治体の環境政策分析と分析結果を活用した実践の課題
○増原直樹 (環境自治体会議研)
- 2B-1100 **奨励賞受賞記念講演**: 海洋生物資源の国際管理における制度間相互作用: 鯨類資源の事例を中心に
○大久保彩子 (東海大・海洋)
- 2B-1115 **2011 年優秀研究企画賞受賞記念講演**: 防災・インフラ分野における気候変動適応策をめぐるアクターのフレーミングギャップの分析
○馬場健司 (電力中央研)

C会場 (A110 教室) 口頭発表 -2C-1 循環型社会 1 (9:00 ~ 10:15)

座 長: 中谷 隼 (東京大学)

- 2C-0900 廃棄物の流通実態にもとづく輸送・再資源化パラメータの推計
○藤山淳史, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- 2C-0915 天津市における廃プラスチックの回収・再資源化による CO₂ 削減効果の推計
○叢 日超, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工), 林 孝昌, 王 長君, 東信太郎 (NTT データ経営研)
- 2C-0930 Preliminary Design of Eco-City in Indonesia by MFA, LCA and MFCA of Cement Industry
○Nova ULHASANAH, Naohiro GOTO (Toyohashi Univ. Tech Faculty of Eng.)
- 2C-0945 Preliminary Assessment of Economic Feasibility for Establishing Dismantling and Sorting Facility of Household's E-waste Computer in Serang, Indonesia
○Pertiwi ANDARANI, Naohiro GOTO (Toyohashi Univ. Tech Faculty of Eng.)
- 2C-1000 バイオマス循環事業の社会経済的効果—福岡県大木町を事例として—
○遠藤はる奈 (環境自治体会議研), 中村 修 (長崎大院)

C会場 (A110 教室) 口頭発表 -2C-2 循環型社会 2 (10:30 ~ 11:45)

座 長: 松本 亨 (北九州市立大学)

- 2C-1030 漁業や海運用のロープによる海浜の漂着ゴミ汚染
○岡野多門, 森田 晃 (鳥取大院)
- 2C-1045 廃棄天然繊維織物を用いて作製した複合材料の劣化に関する研究
○陽 玉球 (東華大学・京都工繊大)
- 2C-1100 地域・業種による食品系廃棄物の排出実態調査
○大村健太, 飯塚壮平, 清水 康, 小野田弘士, 永田勝也 (早大・環エネ)
- 2C-1115 システムダイナミックス (SD) モデルを用いた廃棄物発生量の将来予測
○森田遼介, 後藤尚弘 (豊橋技科大・工)
- 2C-1130 バイオマス (木粉・竹粉) を用いたプラスチック複合材料の高性能化 (1)
○野村 学, 原 公一 (グリーンプレジール), 梅村俊和 (菱江化学), 太田智子 (中央ビジネス) 兪 頴, 村上益雄, 濱田泰以 (京都工芸繊維大)

【第2日目(9月14日) 午 後】

B会場 (A101 教室) 口頭発表 -2B-3 環境経済 (13:30 ~ 14:45)

座 長: 松本安生 (神奈川大学)

- 2B-1330 動学的収獲増進効果を考慮した国別デカップリング状態の分析
○高井 亨 (鳥取環境大・地域イノベ)
- 2B-1345 産業連関表による二酸化炭素誘発量の時系列分析
島崎洋一, ○首藤紘章 (山梨大)
- 2B-1400 先進国の食料ロス・廃棄量の削減が途上国の栄養不足人口へ及ぼす効果の評価
○伏間丈悟 (東工大院・社理工), 棟居洋介 (東工大), 増井利彦 (国環研)
- 2B-1415 東日本大震災が温暖化対策シナリオに及ぼす影響に関する分析~東京都 C & T 制度を中心に~
○古田訓大, 吉田徳久 (早大院・環エネ)
- 2B-1430 原子力災害による福島県産農産物の被害額推定~ナメコを例に~
○園田雄己, 加藤尊秋 (北九州市大・国際環境工)

B会場 (A101 教室) 口頭発表 -2B-4 人と環境 (15:00 ~ 16:00)

座 長: 後藤尚弘 (豊橋技術科学大学)

- 2B-1500 地域に密着した事故・ヒヤリマップシステムの構築
○宇津木隼, 黒岩 翔, 中嶋崇史, 小野田弘士, 永田勝也 (早大・環エネ)
- 2B-1515 単純労働作業の“質”に及ぼす職場環境の影響
鷹尾憲一 (エイチ・イン・ソリューション, 京都工芸織大院), 成田智恵子, 越野哲史, 遠藤淳司 (京都工芸織大院), 白波瀬恭平, 由比貴士, 高井由佳, 後藤彰彦 (大阪産業大), ○濱田泰以, 桑原教彰 (京都工芸織大・院)
- 2B-1530 宮古島内窒素循環の推進による持続的農産物生産の可能性評価
○田村修一, 石井淳也, 藤江幸一 (横国大院・環情)
- 2B-1545 発表中止

C会場 (A110 教室) 口頭発表 -2C-3 環境政策 (13:30 ~ 14:45)

座 長: 大久保彩子 (東海大学)

- 2C-1330 環境条約に見る複数レジームの構造及び相互作用に関する研究
○瀬川恵子 (環境省)
- 2C-1345 気候変動関連基金の法人格のあり方に関する考察
○久保田泉 (国環研), 福田幸司 (地球環境戦略研究機関), 森田香菜子 (国環研), 清水規子 (地球環境戦略研究機関)
- 2C-1400 REDD+ の制度設計に関する研究: カンボジアとラオスの事例より
○森田香菜子 (国環研)
- 2C-1415 自主的な気候変動対策がイノベーション活動へ与える影響に関する実証分析
○井上恵美子 (京大・経済)
- 2C-1430 EUETS の航空分野への域外適用について
○木村ひとみ (大妻女子大)

C会場（A110教室） 口頭発表 -2C-4 環境計画（15：00～16：00）

座 長： 立花潤三（富山県立大学）

- 2C-1500 世界のバイオ燃料用作物潜在量に関するシナリオ分析
○林 礼美，秋元圭吾，佐野史典（地球環境産業技研）
- 2C-1515 日本の山村地域における森林バイオマス資源の利活用事例に関する調査研究
○張 世峰，山本佳世子（電通大院・情報シ），和泉 潤（名古屋産大）
- 2C-1530 東海三県における生物系未利用資源量とその分布
○坂口 巖，片山新太（名大・エコトピア科研）
- 2C-1545 ベトナム南部における現代的エネルギー自給自足型農村の設計と部分的試行
○迫田章義（東大・生研），小坂昌輝，高山慎史，法雨大佑（東大院・工）

ポスター発表(優秀発表賞応募発表も含む)

掲示可能期間：9月13日(木) 09:15～9月14日(金) 15:00 (15:30までに各自撤去願います)

コアタイム：9月13日(木) 12:00～13:30 (発表者はこの間、必ずポスター前にお集まりください)

- P-01 リチウム同位体比を指標とした大気エアロゾルの発生源推定法の検討
○今井 佑(静岡県大・院・環境), 坂田昌弘, 光延 聖(静岡県大・環境研/静岡県大・院・環境)
- P-02 大気中六価クロムの年間濃度変動に及ぼすクロムの形態変化の影響と解析
○山下裕太(横浜国大・工), 姫 旭, 荻野洋祐, 小林 剛, 高橋ゆかり(横浜国大院・環境), 三宅祐一(静岡県立大・環科研), 久保 隆(長崎大・共セ), 亀屋隆志(横浜国大院・環境)
- P-03 廃棄物焼却炉からのハロゲン化多環芳香族炭化水素類の排出情報に基づく周辺住民への曝露濃度推定
○王 齊, 三宅祐一, 唐 亮(静岡県大・院・薬食生命), 堀井勇一, 野尻喜好, 大塚宜寿(埼玉県環境科学国際セ), 雨谷敬史(静岡県大・院・薬食生命)
- P-04 漂着ポリスチレンによる新たな西日本沿岸汚染の実態
○小泉公志郎(日大・理工), 佐藤秀人(日大・理短), 岡部顕史(日大・理工), 登川幸生(日大・理工), 西村昌彦(AORI), 楠井隆史(富山県・工), 道祖土勝彦(日大・薬)
- P-05 日本における河川底質中 HBCD の環境動態
○呉 正根, 真名垣聡, 益永茂樹(横浜国立大・環境情報)
- P-06 駿河湾食物網における微量元素の生物濃縮特性
○三輪 愛(静岡県大・院・環境), 坂田昌弘, 光延 聖(静岡県大・環境研/静岡県大・院・環境)
- P-07 キノンプロファイル法を用いた微生物動態解析による土壤汚染の診断
○永島佳奈, 花辺維真, 小林 剛, 藤江幸一(横浜国大院・環境)
- P-08 発表中止
- P-09 1,4-ジオキサンや揮発性有機化合物の土壤気化・拡散挙動予測による環境影響の考察
○森 一星, 渋谷麻衣, 上田裕之, 小林 剛, 高橋ゆかり, 亀屋隆志, 藤江幸一(横浜国大院・環境)
- P-10 鉛汚染土壌の保管状態の違いによる溶出基準判定結果への影響要因の検討
○久保寺良光, 高橋ゆかり, 劉 予宇, 小林 剛, 浦野紘平(横国大院・環境)
- P-11 北八ヶ岳茶臼山における縞枯現象の推移の報告
○小曾戸貴典, 和田竜太郎, 本橋 章(電大・理工)
- P-12 高リスクが懸念される大気中六価クロムの粒径別分布・堆積粉塵中濃度等の測定と発生源検討
○姫 旭, 荻野洋祐(横浜国大院・環境), 石井沙苗(横浜国大・工), 小林 剛(横浜国大院・環境), 三宅祐一(静岡県立大・環科研), 高橋ゆかり, 亀屋隆志(横浜国大院・環境)

- P-13 廃棄物焼却ガス・飛灰・焼却灰中の塩素化多環芳香族炭化水素類の媒体間挙動
○三宅祐一，唐 亮，王 齊，雨谷敬史（静岡県大・院），堀井勇一，野尻喜好，大塚宜寿（埼玉県環境科学国際セ）
- P-14 中国の化粧品関連書籍中の化学物質リスクに関する記述表現の分析
○林 慧妹，小島裕也，大矢 勝（横浜国大・環情）
- P-15 有機リン系難燃剤の有害性予測モデルの開発とリスクトレードオフ解析への適用
○小谷健輔（横国大・環境情報），真名垣聡（横国大・環境情報），益永茂樹（横国大・環境情報）
- P-16 水質環境測定点における化管法対象物質の一斉検出とその頻度
○齋藤美穂，村田夏樹，近藤貴志，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国大・院・環情）
- P-17 サーマルデソープションを用いたハロゲン化・ニトロ化多環芳香族炭化水素高感度・選択的分析
○朝日宏行，雨谷敬史，三宅祐一（静岡県大・院・薬食生命）
- P-18 微量化学物質分析の窒素吹付濃縮過程における揮散ロスとヘンリー定数との関係
○小沼一元（横浜国大・工），齋藤美穂，三保沙織，近藤貴志，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国大・院・環情）
- P-19 各種環境化学物質のリスク評価に必要な分析感度と濃縮法の検討
○小池英子，亀屋隆志，近藤貴志，小林 剛，藤江幸一（横浜国大・院・環情）
- P-20 竹炭が住環境の快適性に与える影響
鷹尾憲一（（株）エイチ・イン・ソリューション，京都工芸繊維大・大），桑原教彰（京都工芸繊維大・院），
○濱田泰以（京都工芸繊維大・院）
- P-21 都市圏の低物質・低炭素化に向けた人口規模とその分布の検討
○奥岡桂次郎（名古屋大・環境学），大西暁生（富山県立大・工），韓 驥，谷川寛樹（名古屋大・環境学）
- P-22 マテリアルストック勘定の視点からの資源生産性評価に対する検討
○田中健介，奥岡桂次郎，韓 驥，谷川寛樹（名大・院・環境）
- P-23 国内におけるトラベル・フィードバック・プログラムのメタ解析による交通行動変容効果の検証に関する研究
○辻川勝平，東海明宏，中久保豊彦，中澤 暦（大阪大・工）
- P-24 大学生の環境行動と環境情報の関係に関する研究
○小林義幸，後藤尚弘（豊橋技術科大・工）
- P-25 環境意識形成における自然体験とメディア情報の影響比較
○松川太一（広島修道大）
- P-26 環境科学会の25年一大学の環境教育を中心にー
○内山弘美

- P-27 省エネルギー技術普及障壁の体系的整理と事例分析
○荒川 純, 秋元圭吾 (東大院・総合文化研)
- P-28 福井県における野生鳥獣管理の課題と費用便益分析による事業評価の必要性
○金森啓介 (福井県立大・経済)
- P-29 中国の家電リサイクル制度に関する国際比較分析
○戸敷浩介, 周 敏敏, 三宅祐一, 国包章一 (静岡県立大・環境科学研)
- P-30 スーパーのレジ袋有料化とその消費者への影響
○宿谷繁三, 戸敷浩介, 国包章一 (静岡県大・環境科学研)
- P-31 原子力発電・高レベル放射性廃棄物処理場に関する人々の認知の変化の検討～3・11前後の比較による社会心理学的分析～
○高浦佑介 (東大・新領域), 高木大資, 池田謙一 (東大・人文)
- P-32 航空機ハイパースペクトルと地上分光放射データを用いた釧路湿原の植生分類に関する研究
○白木洋平 (立正大), 千賀有希子 (東邦大), 谷口智雅 (三重大), 野原精一 (国環研)
- P-33 3次元GISによる水質可視化の研究
○角田 均 (青森大・ソフト情報), 三上 一 (青森県)
- P-34 他産業から木質バイオマスエネルギー関連産業への人材移転方法論の提案
○田畑智博, 辻 佑機, 坂口卓司 (神戸大・人間発達環境)
- P-35 天津市における廃プラスチックの回収・再資源化によるCO₂削減効果の推計
○叢 日超, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工), 東 信太郎, 林 孝昌, 王 長君 (NTT データ経営研)
- P-36 廃棄物の流通実態にもとづく輸送・再資源化パラメータの推計
○藤山淳史, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- P-37 下水処理場においてバイオマス・熱・CO₂を有効利用する産業共生のデザイン
○蒲原弘継, 佐合悠貴, 熱田洋一, 大門裕之 (豊技科大・工)
- P-38 東京都市圏土地利用変化シナリオの違いによる家計消費間接CO₂排出量の評価
○中道久美子 (東工大・院・理工), 瀬谷 創 (国環研・地球セ), 山形与志樹 (国環研・地球セ)
- P-39 宇都宮市の現状に基づく再生可能エネルギー導入ポテンシャル
○小澤 裕 (東大・工), 栗栖 聖 (東大・先端研), 花木啓祐 (東大・工)
- P-40 中国における洗剤論争関連情報の流過程の分析
○蘇 雷, 大矢 勝, 小島裕也 (横浜国大?環境)
- P-41 先進国の食料ロス・廃棄量の削減が途上国の栄養不足人口へ及ぼす効果の評価
○伏間文悟 (東工大・院・社理工), 棟居洋介 (東工大), 増井利彦 (国環研)

企画シンポジウム

(現在調整中のものを含みます)

【 1 日目 】

シンポジウム-1 9月13日(木) E会場 午前(9:45～12:00)

「環境配慮型消費研究から持続可能なライフスタイル研究への転換」

プロジェクト名：NIES 先導的プロジェクト持続可能社会転換（持続可能な消費とライフスタイル）持続可能なライフスタイルと消費への転換

オーガナイザー 青柳みどり（国立環境研究所）室長
田崎智宏（国立環境研究所）研究員

挨拶：青柳みどり（国立環境研究所）

趣旨説明： アジェンダ 21 で持続可能な消費形態への転換が求められることが提示されてから 20 年が経過したが、一部の消費行動を抑制し環境配慮型にするといったアプローチでは限界も多い。生活者の願望や環境以外のライフスタイル上の重要な内的要因と外的要因を個々の分断された行動からとらえるのではなく、それらが複合的に関連しあった関係として真正面から理解し、生活者の合理性と非合理性を包含するような、次なるアプローチが求められる。

環境科学にはそのような学術的探求が期待されていることを意識し、本シンポジウムにおいては、従来の環境配慮型消費研究から持続可能なライフスタイル研究への転換について、既存のアプローチの限界と次なるアプローチに求められる事項などについて、講演と討議を行う。

講演者：①「持続可能なライフスタイル研究のスコープ」

青柳みどり（国立環境研究所）室長

②「持続可能な消費研究の今後」

田原聖隆（産業技術総合研究所）グループ長

稲葉 敦（工学院大学）教授

③「持続可能なライフスタイル研究におけるシナリオアプローチ
～手法論のレビューとその特徴～」

田崎智宏（国立環境研究所）主任研究員

④「持続可能なライフスタイルを評価するためのモデルアプローチ」

金森有子（国立環境研究所）主任研究員

⑤「中国都市部におけるライフスタイルと消費」

吉田 綾（国立環境研究所）研究員

シンポジウム-2 9月13日(木) C会場 午後(13:30～16:30)

「農薬分解物の安全性、環境中濃度、浄水処理性：農薬分解物の環境安全管理を目指して」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費「農薬取締法における水質汚濁に係る農薬の登録保留基準見直しのための根拠データの取得」および環境科学会化学物質管理戦略研究会

オーガナイザー 高梨啓和（鹿児島大学）准教授
亀屋隆志（横浜国立大学）准教授

挨拶：高梨啓和（鹿児島大学）

趣旨説明： 環境水中の農薬モニタリング結果は多くの報告例が見受けられる一方、農薬分解物の結果は限定的と言わざるを得ない。農薬は環境中で速やかに分解されるように設計されていると考えられるが、二酸化炭素や水などへの完全分解ではなく、分解生成物が残留し、それらが水環境中から検出される場合がある。そこで本シンポジウムでは、環境中の農薬原体および分解物を対象として、試験法や毒性、環境水中のモニタリング、浄水処理性、水道水質基準と測定状況について、厚生労働科学研究費補助金による研究班とともに議論することを目的とする。

講演者：①「水道水中の農薬類の試験法開発とその妥当性評価」

小林憲弘（国立衛研）主任研究官

②「フェニトロチオンなどを例にした河川水中の農薬と農薬分解物の測定」

近藤貴志（横浜国立大学）研究員

③「水道水源における農薬の検出実態」

鎌田素之（関東学院大学）准教授

④「水道統計に見る農薬測定の実態と浄水処理性」

浅見真理（国保医科院）席主任研究官

⑤「フェニトロチオン加水分解物 3-メチル-4-ニトロフェノールの浄水処理性の評価」

松下 拓（北海道大学）准教授

⑥「フェニトロチオン等を塩素処理した際の副生物の探索」

高梨啓和（鹿児島大学）准教授

⑦「水道原水からの検出可能性に基づく農薬類の水質基準分類見直し」

松井佳彦（北海道大学）教授

⑧「化審法等における分解生成物の取扱い」

亀屋隆志（横浜国立大学）准教授

シンポジウム-3 9月13日（木）D会場 午後（13：30～16：30）

「旭硝子財団環境研究近藤次郎グラント発表会」

プロジェクト名：旭硝子財団環境研究近藤次郎グラント発表会

オーガナイザー 岡田光正（放送大学）教授

鈴木基之（放送大学）教授

挨拶：鈴木基之（放送大学）

趣旨説明：旭硝子財団では、平成22年度より「環境研究 近藤次郎グラント」研究助成プログラムの採択を行っている。助成対象は地球環境問題の解決や持続可能な社会の構築に資する研究としており、たとえば新材料・プロセスや計測観測手法の開発、生態系の保全と再生、土地利用、環境教育などから年ごとに研究領域を特定して募集している。1件あたり助成額は実験研究700万円以内、調査研究400万円以内であり、研究期間は2～3年間、毎年5～6件の採択である。本年より終了ならびに中間発表として、その成果を公開する。

講演者：①「西アフリカ・サヘル地域における都市と農村の物質循環の構築

—都市の生ゴミ施用による農村における荒廃劣悪地の修復に関する科学的検証—」

大山修一（京都大学）准教授

②「熱帯雨林地帯における原生林が周辺の耕作地に与える天敵供給サービス」

酒井章子（総合地球環境学研究所）准教授

③「バイオ液体燃料の有効利用を指向した新規燃料電池システムの開発」

大友順一郎（東京大学）准教授

④「安定同位体比情報を利用する水資源保全に必要な森林・河川生態系の健全性評価手法の開発」

大手信人（東京大学）准教授

⑤「東京の湧水・地下水の変遷と土地利用の経年変化との関係、および将来予測に関する研究」

松山 洋（首都大学東京）准教授

⑥「酸化ストレス可視化型 *Daphnia magna* の創出」

渡邊 肇（大阪大学）教授

⑦「エコポイント制度が主観的割引率に及ぼした効果」

松本 茂（青山学院大学）准教授

- ⑧「乾式メタン法と多収（飼料）米を Key 技術とした養豚排水処理とリサイクルのコベネフィットシステム」

細見正明（東京農工大学）教授

- ⑨「超塑性発泡法による非繊維不燃断熱材の創成」

岸本 昭（岡山大学）教授

シンポジウム-4 9月13日（木）E会場 午後（13：30～16：30）

学術賞受賞記念シンポジウム

「環境経済評価における異質性（Heterogeneity in Environmental Economic Valuation）」

オーガナイザー 肥田野登（東京工業大学）教授

加藤尊秋（北九州市立大学）准教授

挨拶：肥田野登（東京工業大学）

趣旨説明： 環境に対する経済評価において評価者の異質性の把握は重要なテーマである。振り返ってみれば、1960年代における環境問題は、ほとんど同質的な評価者を前提として考えてもよかった。したがって当時の分析は代表的個人を前提とした費用便益分析を基本とするものであった。その後、環境問題は多様化複雑化し多くの背景の異なる利害関係者が関与することとなった。一方、経済分析手法は2000年頃にいたるまで数十年前のパラダイムから脱却できずにいた。しかし近年の計量経済学および行動経済学の発展はこのような状況を大きく変化させてつつある。本企画ではセミパラメトリック推定法をもちいたヘドニック分析と実験調査を通じた分析によって評価者の異質性をどの程度経済評価において把握可能かを探り、今後の経済評価の在り方を論じたい。

講演者：①「Real Payment による実験とヘドニック分析における評価者のおかれた状況と異質性」

肥田野登（東京工業大学）教授

- ②「環境に関する選択質問における順序効果と異質性」

加藤尊秋（北九州市立大学）准教授

- ③「セミパラメトリック手法を用いた選好の多様性の推定」

星野匡郎（東京工業大学）日本学術振興会 PD 研究員

【 2日目 】

シンポジウム-5 9月14日（金）D会場 午前（9：00～12：00）

「開発途上国での持続可能なバイオマスタウンの実現に向けて」

プロジェクト名：JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）

「持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合」

オーガナイザー 迫田章義（東京大学生産技術研究所）教授

望月和博（東京大学生産技術研究所）特任准教授

挨拶：迫田章義（東京大学生産技術研究所）

趣旨説明： JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）「持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合」（2009年10月～2014年9月）の目的は、農業を産業基盤とする開発途上国において、その食料生産能を維持・拡大しつつ近代化・工業化への道を歩むために、食料とエネルギーの同時生産、地球温暖化防止、環境保全・改善、さらには雇用創成による貧困対策にもつながる社会システムとして、持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合を提案・検証することである。これまでに、農業副産物・廃棄物等からバイオ燃料・資材等を生産・消費する地産地消型バイオマス利活用システムを提案し、その実証パイロットプラントを建設・運転しつつ、必要な要素技術の開発を行ってきた。このプロジェクトの実施期間の中間段階における成果報告を公開で行うことを趣旨とする。

講演者：①「JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）

『持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合』

迫田章義（東大・生研）教授

- ②「ベトナムの水田におけるメタン発酵消化液の適用可能性の検討」
折立文子（農工研）研究員
- ③「ベトナム南部の水田における水、窒素、リンの収支」
Nguyen Lam Quang Thoai（ホーチミン市工大）研究員
- ④「ベトナム南部のタイミー村におけるバイオマスタウンモデル分析」
望月和博（東大・生研）特任准教授
- ⑤「バイオマス糖化におけるスロー前処理法」
五十嵐泰夫（東大院・農）教授
- ⑥「南部ベトナム環境サンプルからの稲わら分解菌の分離」
Hoang Quoc Khanh（熱帯生物研）主任研究員
- ⑦「界面活性剤によるセルロースのナノ構造変化と稲わら糖化前処理への応用」
徐 東準（東大・生研）特任助教
- ⑧「バイオエタノールの発酵槽からの直接気相吸着分離と脱着濃縮」
藤田洋崇（東大・生研）助教
- ⑨「小規模バイオマスリファイナリープロセスのエネルギー効率」
Tran Phuoc Nhat Uyen（ホーチミン市工大）研究員

シンポジウム-6 9月14日（金）E会場 午前（9：00～12：00）

「化学物質のライフサイクルを通じたリスク評価の最新研究」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費「HBCD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法」（横浜国立大学）

環境省環境研究総合推進費「産業環境システムの耐リスク性」（大阪大学）

オーガナイザー 益永茂樹（横浜国立大学）教授

小林 剛（横浜国立大学）准教授

挨拶：益永茂樹（横浜国立大学）

趣旨説明： 国際化学物質管理会議で採択された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ（SAICM）では、2020年までに「化学物質のライフサイクルを通じたリスク評価に基づき、費用と便益、より安全な代替物質の利用可能性とそれらの有効性に配慮しつつリスクを最小化」する必要性が明記され、各国の取り組みが始まっている。わが国でも化学物質リスク評価への取り組みがなされているが、その評価はライフステージや用途が限られていることが多く、ライフサイクルを通じたリスク評価手法の確立が求められている。そこで本セッションでは、全ライフサイクルリスクの評価事例の提示やその手法の一般化に向けた展望や今後の課題について議論する。

講演者（予定）：

- ①「耐リスク性評価手法の提案とその適用」
東海明宏（大阪大学）教授
- ②「ライフサイクルを考慮した鉛はんだのリスクトレードオフ評価」
恒見清孝（産業技術総合研究所）グループ長
- ③「製品中 HBCD のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減」
益永茂樹（横浜国立大学）教授
- ④「フィジカル暴露シナリオに基づく HBCD 含有プラスチックのハザード解析」
吉野 悟（日本大学）助教
- ⑤「リスク評価のための多様な曝露シナリオの評価」
小林 剛（横浜国立大学）准教授

司会進行：横浜国立大学 産学連携研究員 真名垣聡

シンポジウム-7 9月14日(金) D会場 午後(13:30～15:30)

「未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題～若手研究者からの発信～」

(2011年優秀研究企画賞受賞記念シンポジウム)

プロジェクト名：環境研究総合推進費「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」

オーガナイザー 三宅祐一(静岡県立大学) 助教

堀井勇一(埼玉県環境科学国際センター) 主任

挨拶：三宅祐一(静岡県立大学)

趣旨説明： 2002年に開催された持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD)において、「2020年までにすべての化学物質による人の健康や環境への影響を最小化」することが合意された。既存の化学物質に関しては、評価・管理の枠組みが出来上がりつつあるが、未知物質を含めた未規制の化学物質に関する研究課題は非常に多い。本シンポジウムでは、今後注目される可能性がある化学物質に関する最新情報や、最新の未知物質の計測・評価技術に関する研究成果などを報告し、今後の課題について議論することを目的としている。

講演者：①「新規PBT候補物質 揮発性メチルシロキサン の環境分析法の最前線」

堀井勇一(埼玉県環境科学国際センター) 主任

②「ハロゲン化多環芳香族炭化水素類の排出実態とリスク評価への展開」

三宅祐一(静岡県立大学) 助教

③「ライフサイクル視点からの臭素系難燃剤HBCDとその関連化合物の排出分析」

真名垣聡(横浜国立大学) 産学連携研究員

④「GCxGC-MS技術を用いた新たな定量分析法の開発と未知汚染物質の検索手法の検討」

頭士泰之(国立環境研究所) JSPS特別研究員

⑤「化学物質リスクの検索同定と評価の試み

～バイオアッセイ/化学分析によるアプローチ～」

鈴木 剛(国立環境研究所) 研究員

シンポジウム-8 9月14日(金) E会場 午後(13:30～16:30)

「地域レベル温暖化防止計画の策定・目標管理のための指標・情報」

オーガナイザー 中口毅博(芝浦工業大学) 教授

田中 充(法政大学) 教授

挨拶：中口 毅博(芝浦工業大学)

趣旨説明： これまでこのシンポジウムでは低炭素社会づくりや自治体連携の可能性をテーマとして討議してきたが、今回は原点に戻って、温暖化防止計画の策定・目標管理の課題や今後の方向について討議したい。市町村レベルでは市町村別エネルギー使用量(供給量)データが入手できず、CO₂や温室効果ガス排出量の推計精度が粗く、対策を実施しても現在の推計手法では対策の効果が反映しない。また、施策やその成果を評価する指標や指標体系が確立していないため、強み・弱みを客観的に分析して施策を見直すサイクルが回ってない。そこで今回はこのような現状を踏まえ、どのような情報・指標整備が必要であるか、それをどのように活用するかについての知見を得ることを目的とする。

講演者：①「エネルギー自治のための制度的要件」

竹内恒夫(名古屋大学) 教授

②「自治体の低炭素地域づくりのための低炭素施策指標の開発」

中口毅博(芝浦工業大学) 教授

③「低炭素施策指標のアジア都市への適用と日本都市との比較」

遠藤はる奈(環境自治体会議) 主任研究員

④「都市間国際協力による環境負荷削減の可能性：北九州市民およびベトナム・ダナン市民のケーススタディ」

加藤尊秋(北九州市立大学) 准教授

- ⑤「日本都市における低炭素施策の促進要因分析と施策発展過程に係る知見」
木村浩巳（法政大学地域研究センター）研究員
- ⑥「欧州委員会による「市長誓約」の取組みと地方自治体参加のインセンティブに関する研究」
杉山範子（名古屋大学）特任准教授